

	分科会名	略称	分科会委員の参加可否	分科会活動紹介HP	目的・活用範囲	対象者	内容	活動方法	2018-2019年度主な成果物
1	SPI推進課題分科会	SSe分科会	可	-	SmallSteps分科会は、プロセス改善コミュニティの貢献としてJASPICの資産となり文書を作成するため、従来の議論が出てきた改善アイデア(蓄積された個別のSmallSteps事例)などを「発信可能なレベル」で文書化する活動を行いました。 過去2年間は、その延長線上として、JASPIC人材育成分科会と共同で、プロセス改善人材育成トレーニングで「ワークショップ理論を活用して実行するためのワークショップ開発と活用」を行いました。 本年度は、それをさらに推進して初級者向けのSPI人生ゲームを開発すると共に、成果を纏めてJASPIC外に発表することを計画しています。	活動目的「改善の現場で困っている人を支援したいに賛同いただける方」 現場で使用可能な改善のための知識について気軽に楽しく議論することで新たな気付きを得たい方 ワークショップを教育に活用したい方	本年度は、今までの取り組みを踏まえ、以下の活動を行います。 ・2017-2019年度に実施した「ゲームワークショップ活用ワークショップ」をベースにゲームワークショップ教材(素材)の充実 -収集したSPIワークショップの整理とそれらを活用したSPI人生ゲームの試作 -現場で使用可能な改善のための知識について気軽に楽しく議論すること、SmallSteps事例を増やすと共に、SPI人生ゲームの課題カードやその解決カードを増やす -例えば、議論の内容や改善の開発過程を通じて、新たなSmallSteps事例を増やすと共に、各自の興味あるテーマを持ち寄り議論する -例えば、WOK分科会(SPI事例研究分科会)の勉強会に参加して、カンファレンスの発表論文やJASPIC内の企業事例を学習し、SPI人生ゲームで活用できる知識を抽出する	2か月に1回程度のペースで定例会合を開催して、各自の検討結果等を持ち寄りディスカッションする -成果物のため、および集中ディスカッションのための合宿を実施する	ゲームワークショップを活用したSEPG育成ワークショップ成果物一式
2	SPI事例研究分科会	WOK分科会	可	-	カンファレンスの発表論文やJASPIC内の企業事例を学習し、自分たちの組織で活用できる知識を抽出することで、SPI事例をより深く理解することを主な目的とします。 併せて、類似の知識を共有し、抽出した知識をSPI-WOK(SPI知識網)に追加することで、知識の共有・資産化を推進します。	SPI事例を幅広く学習し、知識を組織に持ち帰りたい方 -会合参加者から参考となる知識を吸収したい方	定期的な勉強会を開催し、事例の勉強(輪読・議論)や事例発表者との議論を行う。勉強会の直後に、SPI知識としての再整理を行い、SPIWOKツールに追加する。	月に1~2回のWeb会議(Zoom)、1回は2時間とする -年に1回の合宿を行う	SPI知識集
3	Statistical Process Control分科会	SPC分科会	可	-	機械学習、データマイニング手法などの発展を背景に新しい統計分析手法が提案されつつあります。ソフトウェア工学の視点から、これらの手法の活用可能性を調査検討し、その成果をまとめています。 ソフトウェア技術者にもデータ分析に関するリテラシー向上が望まれています。ソフトウェア開発に現れるデータを中心としたデータ分析の解説、演習書を作成します。作成はRStudio等を用い、PC上実行可能な形式にまとめていきます。	ソフトウェア開発に関する種々のデータの分析、活用に関心のある方	■これまでの活動成果 ・「データ解析のための統計モデリング入門」勉強会…輪読と解説による学習 -BERT(Basic Excel R Toolkit)の紹介…主な機能、使い方の紹介 -SPI Japan2019 トーク&納得セッション(プロセス改善とAI/ML)運営 ■今年度の取り組み(予定) ・輪読Rで楽しむ統計(Wonderful R1) ・統計を学習するための教材作成 -Rの活用ガイド ■注力ポイント ・統計モデリングの学習を継続し完了する ・統計学入門者を対象とした教材化に向けた学習ポイントを整理する ・Rの活用ポイントを整理する ・これらを選定他分科会や他コミュニティと連携しながら進める -MLP分科会(Rの活用)、CCT分科会(PSP/TSPとAI/MLの活用) -SQIP、データ分析勉強会	データ分析技術の輪読、文献調査を行い、結果をまとめる -日科技術のSQIP研究会参加者を中心に運営されている「ソフトウェア品質技術者のための」データ分析勉強会(https://sites.google.com/site/kantometrics/)との交流を実施する -上記の交流活動を通じて、RStudio等を利用したデータ分析の紹介資料、演習資料を共同作成する -RStudio等を利用したデータ分析の紹介資料、演習資料を作成する	SPI Japan2019 トーク&納得セッション 発表資料
4	SPI現場/ノウハウ交換分科会	ノウハウ分科会	可	-	CMMIをベースに作成されたハンドブックを叩き台に、実践的解釈と研究およびハンドブック改善を行います。 具体的には、CMMI2.0や他のフレームワークのプロクセスを読み解き、ハンドブックと対比することで、プロセス改善活動の理解を深めます。更にプロセス改善全般的な実践的活用事例等を研究します。	-現場でのSPI活動で日々苦勞されている方で、首都圏で参加可能な方	フレームワーク及び研究方法はメンバーで議論し、選択する。 研究方法 ① 対象フレームワークのプロクセスの体系的な解釈を議論し、具体的に実践方法を形式化する。 ② 実践的解釈に基づき、プロセス改善の実践方法について議論し、成果物にまとめる	月に1回程度の会合 -会場はメンバー持ちまわりを原則とする	各アクティビティの実践的解釈および実践事例のまとめ -CMMI V2.0Cv1.3のプラクティスマッピング表 -CMMI V2.0Cv1.3のプラクティスマッピング図 -ASPIEC vs CMMI-DEVI.3.0のマッピング
5	コアコンピテントチーム研究会	CCT分科会	可	-	個人が多様な価値観を持ち、力を高め、自律的に発揮することが、ソフトウェアや組織の発展に必要です。その基礎となるコンピテンシ、ものの考え方とそれを育む環境を議論し、理解を深めます。 これまでPSP/TSP、パーソナルプロジェクト管理、マネジメント基礎、エンジニアリング組織論などを取り上げました。2020年度はマネジメントや心理的安全性も取り上げ、課題解決のヒントを見つけたい。	プロジェクトチームの能力向上あるいは効果的なプロジェクト・マネジメントを実現したい方 ソフトウェア開発を本業の「楽しくてやりがいのある」仕事にしたいと思っている方 TSP/PSFなど、個人やチームの能力向上に興味がある方	■これまでの活動成果 PSP(Personal Software Process) / TSP(Team Software Process)の研究 Active Learningの理解とSPIへの応用の研究 Personal Project Managementの学習 エンジニアリング組織の学習 プロジェクトチームの能力向上あるいは効果的なプロジェクト・マネジメントを実現したい方 ■今年度の取り組み(予定) PSP/TSP、アジャイル、マネジメント、心理的安全性の研究 ■注力ポイント 関連分科会(HRD, KS, SmallSteps, SPC等)との情報共有、連携	月に1回程度の会合(主に関東、適宜関西にて開催)および合宿、メルマガリストでの議論	(非公開)
6	プロダクトライン分科会	SPL分科会	可	http://www.jaspi.c.org/activities/sig/308-spl/	プロダクトライン分科会では、その名の通り「ソフトウェアプロダクトライン」(SPL)に興味を持つ研究員が集まり、2005年から活動を展開しています。年度の初めに決めた活動テーマに沿って、各自が本業の調査検討した結果を持ち寄り、2か月に1回程度集まって議論を交わすことで、新たな知見を獲得し、プロダクトラインへの理解を深めています。	プロダクトラインの開発を成功させたい方 プロダクトライン間の開発の導入を考えている方 -複数の製品ラインナップを効率的に開発したいと考えている方 -ソフトウェア資産やプロセス資産を有効活用したいと考えている方	本年度を引き続き、分科会メンバーの経験や知見を活かした会合の場で議論等を通じ、新たな理解を得て、今まであまり触れていなかった観点からプロダクトライン開発の様々な課題点について検討を進め、その結果をSPLハンドブックにまとめたいと思います。今後の会合の中で分科会メンバーが広く希望を集め、面白いテーマに取り組み予定です。	2か月に1回程度のペースでWeb会議を含む定例会合を開催して、各自の検討結果等を持ち寄り、ディスカッションする -成果物のため、および集中ディスカッションのための合宿を実施する	-TCSE2019での講演資料「派生開発におけるベースシステムからコア資産への進化」 -JASPIC 2020年度 第1回例会 プロダクトライン分科会成果物紹介スライド
7	人材育成分科会	人材育成分科会	可	http://www.jaspi.c.org/activities/sig/310-hrd/	人材育成分科会は、ソフトウェアを含むシステム開発プロセス改善のための人材育成を各種の課題、技法、教育体系、知識体系等の観点で検討を加え、得られた知見をもとに各社の教育プロセス改善に役立つ成果物作成を目指して活動しています。 また、近年の活動では、プロセス改善の土台とも言える、組織風土改革やヒューマンスキルについても焦点を充て研究しています。	ソフトウェアを含むシステム開発プロセス改善(SPI)活動の人的育成や組織能力開発に日夜奮闘されている方 -SPIの人的育成技法について知見を広めたい方 -SPIの教育体系・人的育成の知識体系に関心のある方 -SPIにかぎらず、組織風土改革やヒューマンスキルの知見を広めたい方	■これまでの活動テーマ アジャイル型人材育成調査・研究/アジャイル分科会連携 2017-2018年 ゲームワークショップ活用ワークショップ開発と実施(SSS分科会と協同活動) 2018-2019年 ゲームワークショップ活用ワークショップのブラッシュアップ TealiumOKRO調査と活用検討 [2019-2020年の活動テーマ] Tealium調査の事例調査および文部調査を行い、トヨタグループでもなくボトムアップ型でもない組織や組織風土における改善活動全般の方法、有効性、リスク(課題)について研究する(SPIに限らず、インバーター、インフラエンジニア・人材の育成方法についても考えたい) テーマに関する「問題」や「相談事」を提示。その問題を背景として、各社事例自身の考えを持ち寄り、その問題や相談事の解決策を導きました。今年度は、以下の一環として、課題の深堀とその対応方法についてディスカッションします。 [テーマ内容] 「ソフトウェア」の「プロセス」が「人」以外の人には伝えないで済むのか? 「ソフトウェア」が「人」以外の人には伝えないで済むのか? 「ソフトウェア」が「人」以外の人には伝えないで済むのか? 「ソフトウェア」が「人」以外の人には伝えないで済むのか? -SPI人材にエンジニアリング能力が必要か? の答えを模索する -エンジニアリングとプロセスの関係について	月に1回のペースで定例会合を開催して、各自の検討結果等を持ち寄りディスカッションする -成果物のため、および集中ディスカッションのための合宿を実施する	ゲームワークショップ活用SEPG育成ワークショップ一式
8	関西分科会	関西分科会	可	-	「ソフトウェアプロセス改善の対話を関西で実施したい」という目的で設立した分科会です。各自が持つテーマ等を持ち込み、社内で解決できない課題メンバーでアイデアを出し合いながら知識やスキルを向上すると目的としています。	-相談開発プロセス、派生開発、アジャイル、SPI/SQAなどソフトウェアのプロセスや技術に興味があり、特に関西の会合であれば参加しやすいため、詳しいテーマの持ち込み、社内で解決できない課題相談も可能です。	テーマに関する「問題」や「相談事」を提示。その問題を背景として、各社事例自身の考えを持ち寄り、その問題や相談事の解決策を導きました。今年度は、以下の一環として、課題の深堀とその対応方法についてディスカッションします。 [テーマ内容] 「ソフトウェア」の「プロセス」が「人」以外の人には伝えないで済むのか? 「ソフトウェア」が「人」以外の人には伝えないで済むのか? 「ソフトウェア」が「人」以外の人には伝えないで済むのか? -SPI人材にエンジニアリング能力が必要か? の答えを模索する -エンジニアリングとプロセスの関係について	年に10回程度の会合、平日3時間程度 -会場はメンバー持ちまわりを原則とする	-関西分科会概要 -SPI Japan2019 トーク&納得セッション 「物事を構造的、抽象的に捉えたい?」ワークショップ資料
9	要件定義プロセス分科会	RD分科会	可	-	要件定義に関するあるべき姿や問題/課題等について検討し、その知見を共有します。 最近H/VUCAに対応するアジャイル開発での要件定義に注力しています。 組み込み系、SI系含め、現場での展開/手法/エンジニアリングも考慮して議論します。	-要件定義に関する課題や問題意識をメンバーに共有し、解決策やあるべき姿を一緒に検討したい方	DX, SoE, 共創などVUCA時代の開発では、今までのウォーターフォールでの要件定義のやり方では、合わなくなってきたり、アジャイルでのプロダクト/サービス(ビジネス的なユーザー)のやり方が良しと思われるが、「どこまで記述すべきなのか?」「実装までのロード/シフト/ドキュメントを確保するの?」等々、検討すべき点があり、現在把握されている様々な要求/学習的な手法(※)も調査して、得られた知見を共有し、あるべき姿について検討/整理を行ってまいりました。 ※参考文献:「ソフトウェア要求 第三版 (K. Wieggers, J. Beatty : 日経BP社) 等 -要件定義とプロセスの向上に関するような開発現場への提案を成果物としてまとめて、継続的にブラッシュアップしていく予定です。	年に10回程度の会合(会場はメンバーの持ち回り) -資料、文献については、適宜、各自が調査して、結果を会合に持ち寄る。	-要件に関する手法・ドキュメント
10	プロセス改善戦略分科会	戦略分科会	可	-	SPI Manifestoや分科会策定の戦略フレームワークを用い、メンバーが所属する組織・事業を対象とした「戦略の策定・評価・改良」の議論を通じて、改善活動の進め方を改善します。 (軍事戦略、ビジネス戦略など) プロセス改善以外の他分野も含め、戦略についての研究を行います。	-プロセス改善活動の進め方に悩んでいる方 -プロセス改善活動の戦略的な計画立案や、現在の戦略の診断・見直しに関心がある方 -プロセス改善戦略のフレームワーク研究に興味のある方も歓迎	-戦略フレームワークやSPI Manifesto/ISO33014を用いて、分科会メンバーの組織・事業を対象とした「戦略の策定・評価・改良」を行い、改善活動の進め方に関する議論を行う。 -ISO33014やIEC61508/IEC61509を含む戦略についての研究を行う。 -SPI戦略セブンステップを開発する。	月に1回程度のWeb会議 -年に1回の合宿 -学会発表	-SPI戦略セブンステップ -プロセス改善戦略フレームワーク(2020年版)
11	IDEALモデル実践研究分科会	IDEAL分科会	可	-	下記の想いからIDEALモデルの各フェーズでのSPI活動の成果や効果の見える化について研究しています。 ・自分たち(SEPG/経団等)の活動をアピールしたい ・活動の内容や成果、効果を経営層(社長や事業本部長等)にわかるように説明(見える化)し、きちんと理解してほしい ・IDEAL分科会成果を自社の活動に役立てたい	-全社、開発部門でSPI活動をこれから立ち上げる、及び推進している方 -効果の見せ方で悩んでいる方	1. SPI活動の成果や効果の見える化の研究 IDEALモデルのフェーズで、どのような成果/効果を取り、どのような事を見せるのかについて、情報交換を行い、有効な成果や効果その見せ方を検討する。 2. 外部情報収集 関連するセミナー、講演会に参加した場合、例会の場で紹介する。	年に10回程度の会合(会合の会場はメンバー持ちまわりを原則とする) -2回程度の合宿	(非公開)
12	SPI Manager分科会	SPI Manager分科会	可	-	1. JASPICが提供するSEPG向けの研修である「SPI Manager」の受講者対象に、ECQA資格試験の受験準備を目的として、勉強会の開催や準備資料の作成、共有等を行います。 2. SPI Managerの教材に、「SPI Manager」トレーニング資料を日本向けに改訂します。特に、JASPIC内外の事例をベースとした資料とするための議論・活動を行います。	-ECQAの認定資格に求められる知識やスキルの内容に興味のある方。受験を予定している方 -SPIに従事する人材に必要とされる知識やスキルそのトレーニング方法に興味のある方	-ECQA版SPI Manager資格試験の実施タイミングに合わせて、受験予定者参加の勉強会を実施します。 -日本向けのSPI Manager「J」教材を開発します。	-受験のための勉強会は、2回程度の集合形式(1回は2時間程度) -トレーニングコース教材改訂のための会合-合宿	-JASPIC版ECQA「SPI Manager」トレーニング教材(ただし、限定公開)
13	オファショア分科会	オファショア分科会	可	-	中期的に下記内容を中心に調査研究を行います。 ・特定地域(例:中国沿岸部、中国内陸部、ベトナム、インドなど)における業界動向の研究 ・オファショア(会社・成果物)に対する評価方法や受入基準などの事例の収集 ・海外勤務・駐在経験者からオファショア先から見た課題共有・抽出 ・その他「オファショア」に関する様々な情報共有・課題検討・事例研究	・オファショア発注/推進している、またはオファショア発注を検討している方 ・オファショア開発対象国の国民性や適性などに興味がある方 ・オファショア開発に関する知見・経験などを共有したい方	・オファショア開発国におけるHofstede指標に対する考察 異文化理解力(3C/4C/5C)に関する考察 ・オファショア開発に対するノウハウ作成 -特定のオファショア開発の在り方・方向性検討 -特定オファショア企業研究 -海外勤務・駐在経験者によるオファショア開発課題検討	2か月に1回程度、分科会開催(開催場所はメンバー(各社)持ち回り) -分科会は、積極的に外部と交流を目的とした他と、各社の事例・実状を共有する他年度に企画・実施 -積極的に外部と交流する際は、分科会メンバー(以上のJASPIC研究員やJASPIC外と連携 -オファショアに関する外部イベントへ出席 及び 分科会へのフィードバック	-異文化におけるオファショア開発の在り方 -海外教授と語る会(当日資料&当日追記版) -オファショア開発.com 国際基本データ -オファショア開発白書(2018年版)
14	アジャイル分科会	アジャイル分科会	可	http://www.jaspi.c.org/activities/sig/319-qaile/	今や当たり前となったアジャイル開発、当然のことながらSEPGもアジャイルに対する知見を身に蓄け、アジャイル開発への対応を行わなければならない。 アジャイル開発におけるプロセス定義・改善をどのように行えばか、アジャイル分科会ではこの課題に対していろいろな視点で議論を行い、新しいワークショップ開発など、実践に近い活動を行っています。 また、JASPICの他分科会と合同開催を行ったが、外部の調査を広いディスカッションを交わらねばなりません。	-アジャイルに興味を持っている方 -アジャイル開発を推進する方 -アジャイル開発に携わっている方	・アジャイル開発国におけるHofstede指標に対する考察 異文化理解力(3C/4C/5C)に関する考察 ・オファショア開発に対するノウハウ作成 -特定のオファショア開発の在り方・方向性検討 -特定オファショア企業研究 -海外勤務・駐在経験者によるオファショア開発課題検討 こまめに検討を行うべき以下テーマについて深堀を行いテーマ毎に提案としてまとめます。 [メインテーマ] アジャイル開発をプロセス改善の観点で見る [個別テーマ] 1. Start-Up アジャイル開発に初めて取り組む際に気を付けること、どこから、何から始めればいいのかの指針の検討など(実際の取り組みもあろう) 2. 横断で見るとどうすればいいのか 開発チーム外の第三者が、複数のアジャイル開発チームの状況を把握するために必要なこと、注意すべきことなど 3. アジャイル開発におけるSEPG/SQAのあり方 アジャイル開発におけるSEPG/SQAのあり方 アジャイル開発におけるSEPG/SQAのあり方 4. アジャイル開発の「デザイン」作成をSEPGが支援することは、SEPGが持つべき役割のひとつであると仮定し、参加メンバーのスキルアップを図るための活動を行う -ワークショップ、輪読等(内容についてはこれから検討) -外部講師を招聘して意見交換を行う -JASPIC内外のコミュニティの交流を図る -過去の主な活動結果 -輪読(アジャイルの魂) -アジャイル祭り(JASPIC例会) -アジャイル開発行動展示「e Agile! アジャイルで行こう!」(SPI Japan 2016) -トーク&納得セッション「現場と納得!「アジャイル開発」(SPI Japan 2017) -「アジャイル開発導入のお悩み解消!アジャイル診断体験」 -ドキュメントフォーラム(2019年7月) -トーク&納得セッション(SPI Japan 2019) etc.	1~2か月に1回程度の会合(原則、毎回合宿(単合宿)) -テーマ毎に各自が持ち寄り事前に検討を行う -勉強会(ワークショップ、輪読等) -外部交流	-アジャイル開発スタートアップキット 改訂版 -アジャイル品質バナー
15	プロセス改善への機械学習応用分科会	MLP分科会	可	-	AI(機械学習)技術が急速に進展しつつあり、種々の分野への応用が顕著され関心を集めています。本分科会では、プロセス改善への応用を念頭に以下のような活動を実施します。 (1) 代表的な研究者の研究内容調査、講演会の開催(講演会はJASPIC内に公開するよう企画) (2) 基本的な文献の輪読 (3) 分科会参加者間の情報交換(機械学習環境の調査報告、試行結果、ヒック紹介など)	プロセス改善への機械学習技術の応用に関心のある方	- 外部の研究内容を紹介する講演会(和泉山大学大平先生、日立製作所) - 輪読会(座談会、「これならわかる深層学習入門」、講談社(2017)第6章まで読了) - 論文紹介(ICSE, ソフトウェアエンジニアリングから関連論文をピックアップ) - 機械学習スタートリプル(TensorFlow, Python) ■今年度の取り組み(予定) 講演会の企画・運営 輪読の継続 BERTなどの関連ツールおよび関連論文の紹介 AWS等の実行環境上でPython+Rを用いた機械学習の実践 注力ポイント 論文やツールなどの先行事例を学習する - 分科会メンバー自ら手を動かして理解を深め、SPIや開発への展開を検討する	- 定例会(月1回程度)開催(会場は分科会メンバー所属のJASPIC会員企業内)輪読会、論文紹介、分科会メンバーでの経験共有などを実施する - 「機械学習のプロセス改善への応用」に関係したテーマでの講演会開催(外部研究者招聘)	- 輪読会記録